

答辞

暖かい陽の光が降り注ぎ、桜の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じるこの良き日に、私たち卒業生六十四名のためこのような盛大な式を挙行していただき、ありがとうございます。また、先程の校長先生からの式辞の他に多くのお祝いの言葉をいただき、誠にありがとうございます。

思い返せば、この三年間はあっという間でした。三年前、慣れない制服に身を包み、牛深高校の門をくぐりました。不安で息が詰まるようになったのですが、先生方に優しい笑顔で迎えていただき、安心感と「高校生になったんだ」というワクワク感に包まれました。

入学式の次の日からは集団宿泊研修が始まりました。夜に行われた集団行動研修は、厳しく指導をしていただき、高等学校の厳しさを肌で感じ、牛深高校生として覚悟を決めることができました。消灯の時間が迫り、仲良くなりたての友達と別れて部屋に戻るのが寂しかったのを覚えてます。この集団宿泊の多くの研修の中で「一気にみんなの距離が近づきました。そのおかげで、五月の体育大会では、良いパフォーマンスができ、あっという間に年次で団結する事ができたと感じています。

二年次になり、先輩に頼りきりではなく、自分達が学校を盛り上げなければいけないと、行事や部活動で張り切っては空回り。自分で選んだ系列なのに、想像以上の難しさに困惑し、それぞれの系列の大変さについて仲間達と語り合いました。

三年次になり、進路の話があらゆる方向で聞かれるようになりました。体育系の大学に進学したい私は、夕課外と部活動、小論文、面接など多くの先生方に時間を割いていただきました。感謝してもきれえません。そして多くの友人から応援の言葉をもらって臨んだ推薦入試。自分のバストを尽くした結果の不合格。頭が真っ白になりました。そんな時に支えてくれたのも三年次のみんなでした。普段通りに接してくれ、励ましてくれました。落ち込んだ時に仲間が言ってくれた「がんばろう」「そのお話を聞いて一言だけでもいいよ」とも温かく、深い意味を感じました。そこからは共通テラス対策の日々。苦しい受験勉強の中でも皆の明るさに救われ、なんとか毎日を必死に過ごすことができました。まだ進路が決まらず、不安なことがありますが、今まで支えてくれた人達の気持ちを胸に頑張ります。

私たちの学年は人数が多く、たくさんの方の期待の言葉をかけていただきました。しかし、その期待に反するような事をしたことも多くあったかと思えます。しかし、どんな時でも私達を見放すことなく、真剣に支えてくれた先生方。本当に感謝しています、ありがとうございます。

そして在校生のみなさん。私達は頼れる先輩になれていたのでしょっか？今年度あった少ない学校行事では皆さんが私たちよりも盛り上げてくれる事も多くありました。そんな君たちになら、牛深高校を託せると確信しています。

最後に、これまで愛と温もりを与え続けてくれた家族。手がかかる末っ子ですみません。どんな時でも母は本気でぶっかかってきて、納得するまで話し合い、途中でやめることはありません。そんな姿勢を私は面倒くさがり、部屋に逃げ込んだ時もありました。でもそんな私に、「めんどくさがるな。迷ったら正しい道を選べ。いつか必ず自分の糧になる。」と言い続けてくれたこと、本当に感謝しています。あなた達の家族で本当に良かった。保護者の皆様、まだまだ未熟な私たちですが、全員がこれまで過ごした日々を糧にそれぞれの場所で一人前になれるように励みます。迷惑や心配をかけるかもしれないですが、これから温かく見守っていてください。

三年間嬉しかったこと、楽しかったこと、辛かったこと、悲しかったこと、全ての思い出が牛深高校に詰まっています。牛深に生まれて良かった。この学年で良かった。みんな、出会ってくれて本当にありがとう。これから私達は、それぞれの進路に向かって一歩一歩自分の足で歩いていきます。今後、大きな壁にぶつかったとしても、牛深高校で学んだことを胸に、力強く生きていきたいと思います。

そして、いよいよまで支えていただいた全ての皆様に対する感謝の気持ちとともに、牛深高校と、故郷である牛深の益々の発展を祈念いたしまして送辞いたします。

令和三年三月一日

熊本県立牛深高等学校

卒業生代表

中村 大悟